尾張英傑畫傳

全

Z
149
4

逍遙文庫
文庫6
1708

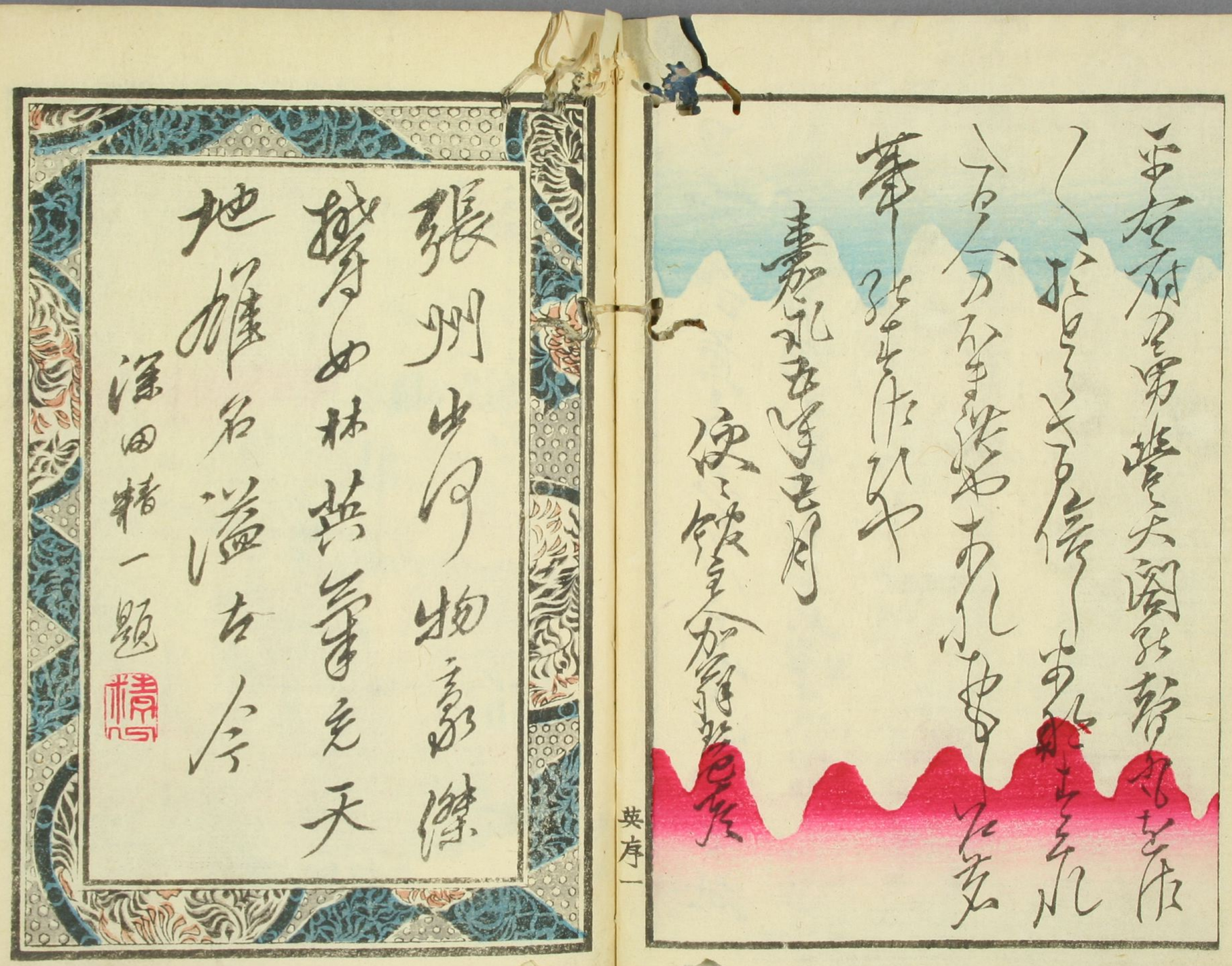
文庫6
1708

春江大人輯并畫

尾張英傑畫傳

文華堂壽梓

日本武尊の高名世に
尾張の国に生れ給ふ
事なり
交なれ共
く於ても
其人乃



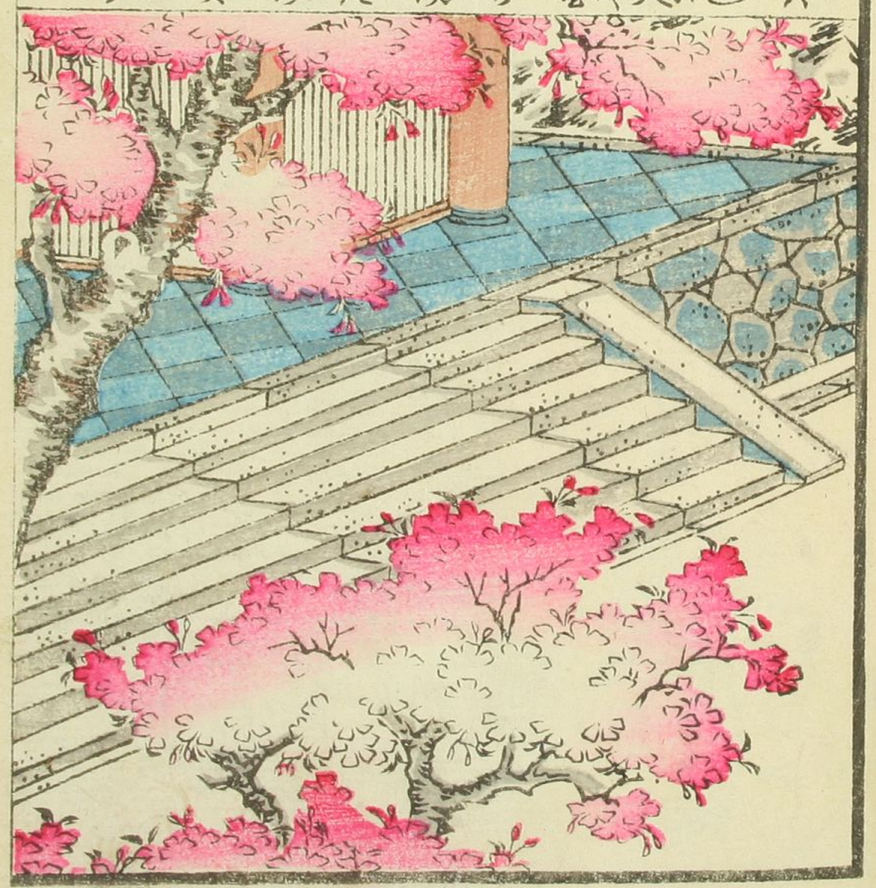
張州山河物象傑
聲如林英華光天
地雄名溢古今

深田精一題

豐臣秀吉公

尾張国中村の人幼名日吉丸
又小竹と云母尾中に日輪を
呑しゆめて天文六年の出生
元は公民同の姓しき家の
生産単州こざより奴僕の
勤をあり戦国の中を横
切り西を征し東を靡け
北を討南を略し神東成
功をなして身を立
て関白職まで登り

天下を掌握のひとり
尋常の行状にて威光
ぐく誠に古人に及の大
器量なる公の武威八洲
朝鮮迄もて及がせり走る
のこと北地の大茶湯
碓氷の茶足おど風流のた
ふ世をあり天下の人の
目を驚色たまひしに和漢
たぐひおき良持ちやふ
べき



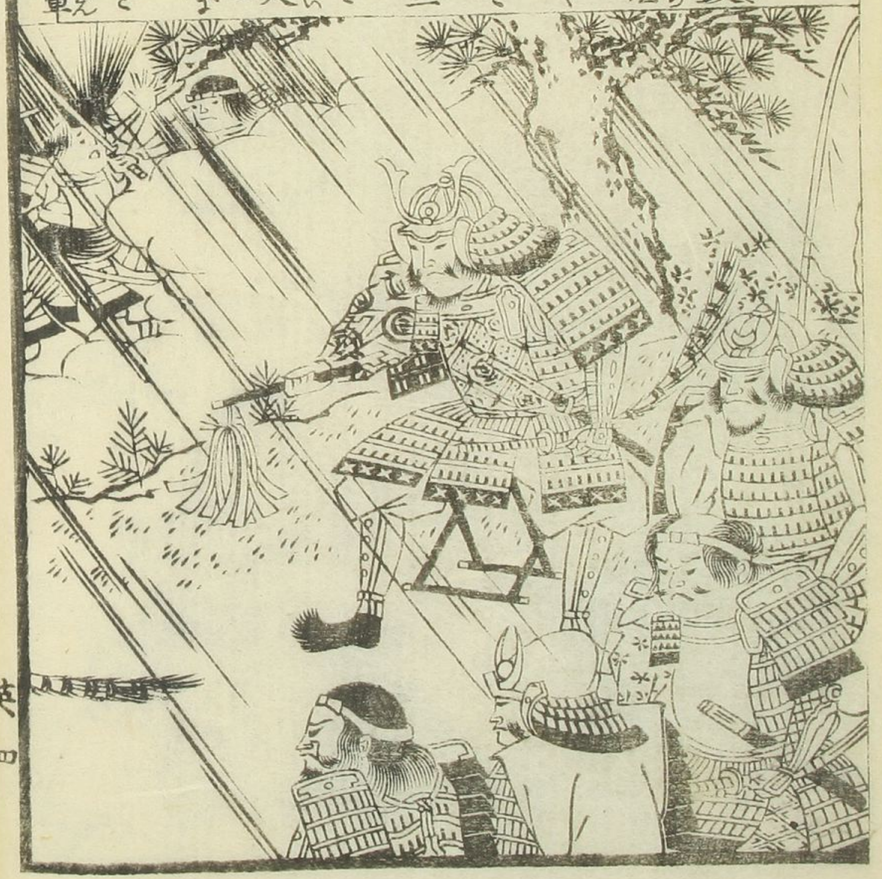
源頼朝公

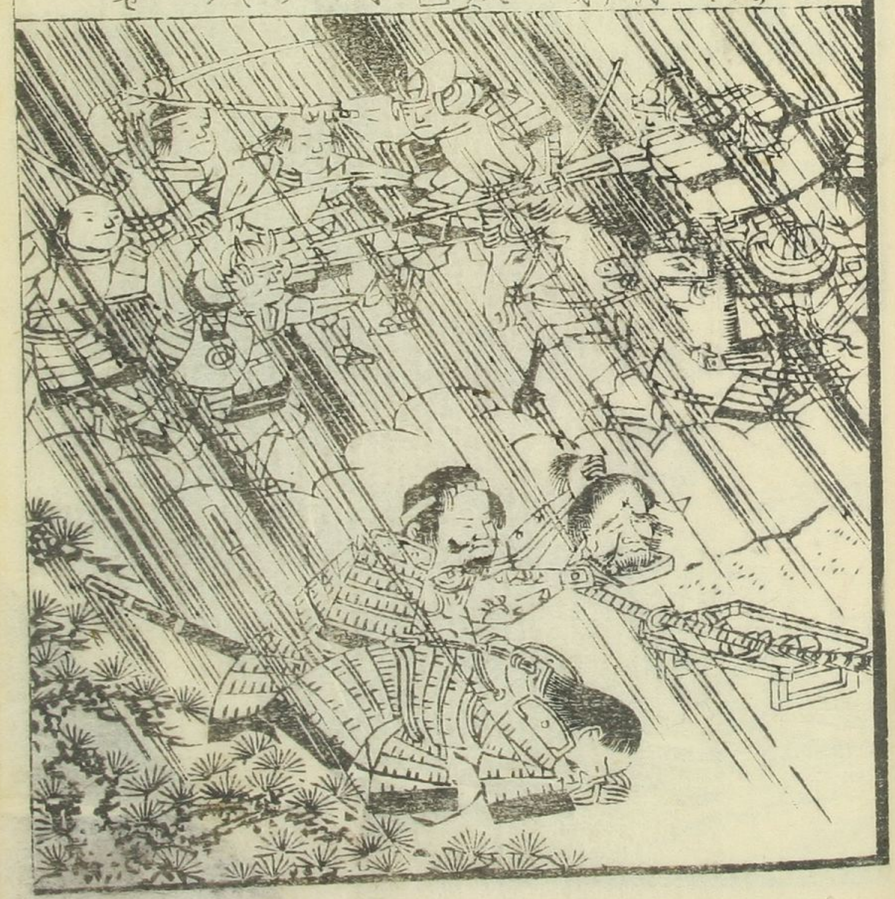
源義朝の三男熱田の旗屋里で久安三年四月八日誕生わり年十三にて右兵衛佐に任ぜられ始て源平の合戦に出陣し平家の士卒を滅ぼし源家を興し死罪に行はるべきを清盛の継母池禅尼みたまけられて伊豆国蛭小島へ流され其後高倉天皇の令旨をうけ義兵をおこして終に平家を亡し給ふ

の惣追補使となり平三位右近衛大将となる凡天下の乱逆を治め征夷大将軍と草創しぬ扨武将のうち此公ほど一の魁にして末代まで武をもって天下を治るの規範なり或時は鎌倉八幡宮の鶴岡をそなへ富士の裾野に巻狩をなし名を後代に揚げ又は公卿をとらせ給ひ勅撰集に多くいます

平信長公

織田信秀の嫡男そ母ハ土田政久の女なり天文三年正月名古屋城にて誕生あり幼名吉法師丸いひ又上総介と称す後勅して大政大臣従一位を給ふる永禄三年岩倉を征して尾州国を治め同三年九月今川義元の大勢を駿河の小勢にて桶狭間討死同七年八月稲葉山をせめ付同十一年七月義昭将軍を供奉して上洛三好松永を退治同十三年八月伊勢北畠を討元亀元年四月越前を攻同月姉川市合戦天正元年正月義昭を京都へつれ出し同七月足利家亡くて信長公将軍となり武威朝日の登るが如くなりしが同十年六月逆臣明智光秀ゆえ本能寺にて弑せられ自殺あり





建稲種命

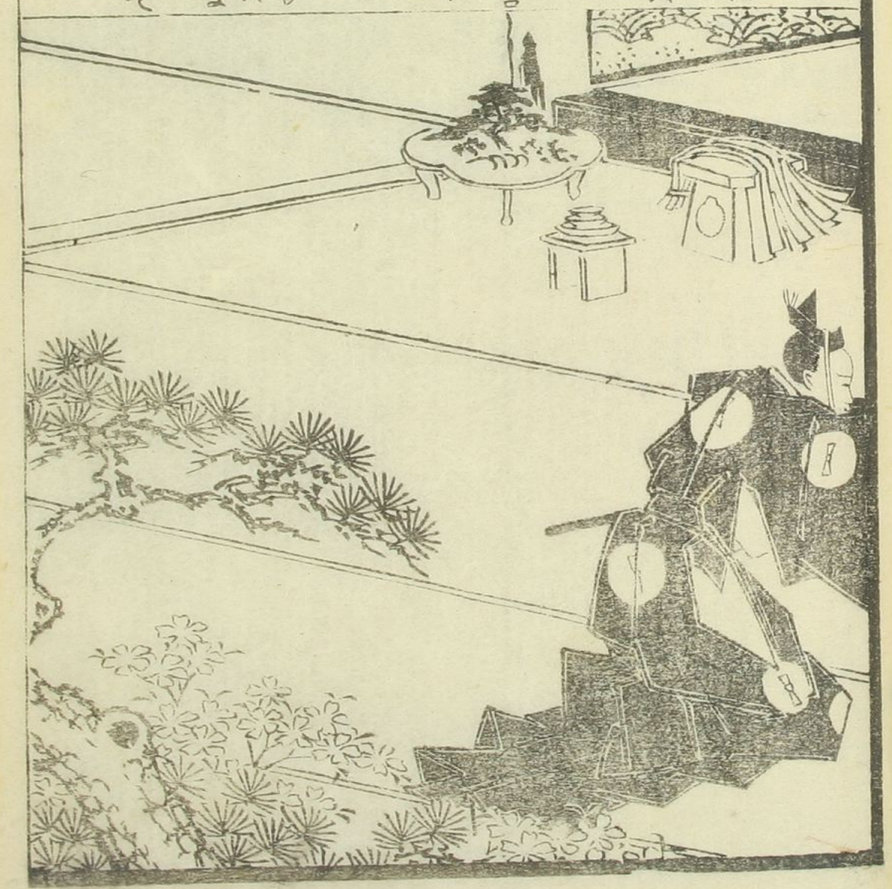
智多郡大高村むらに鎮座
郡に属て大高と云てこゝに住
居なり〻人まて〻天火明命
九代の孫天夜別命の御子尾
張国造のむすめ小豊命
の御子御母八大印岐女子
真敷乃伊命ちゝかくて日本
武尊東征のとき建稲種命
の御弟逼留し給ひ御妹
宮酢媛命と寵幸まくつ

ひて正妃と定めゝさく
稲種命ハ迩波縣君の祖大
荒田命の御女玉姫をめと
りて二男四女を生のひし
こ夫より日本武尊東征
むとひ給ひ御供まゐらひ
東東征伐の砌武功さゝく
あり言御凱旋の砌は後
河のほとりを射とし
おやまろ海に入てうせ
ゝ

前大納言利家

尾張知郡萬子村の人前田彦
右衛門利昌の四男にて幼名犬千代
後孫四郎と改め又左衛門尉と
称し初め織田信長公に奉仕
天文廿三年十四歳にて初て
還と号し言名天下に
達し武功を近江守と公
かくまでのぼり後秀吉公に
仕へ忠勤わかく
て加賀国を平均わたり尾

に叙爵させ秀吉公の苗
字をも官をもゆるして羽柴
筑前守と名のらせられる其
挙用わりし事かくのごと
文禄三年夏従三位中納言
ふ任じ慶長二年夏大納言
に移せられる莫大の尾禄を
賜て終に秀頼公の傅とな
り天下の大老と仰ぎ尾
長四年閏三月三日大阪にて
逝去あり



道場法師

愛知郡古渡村むら八尺輪里

といひしが

敏達天皇の御宇の頃

所へ霊験あらたなるまろうど

一子をもうけ既に十歳の時八方

八尺の石を投る力あり此児南

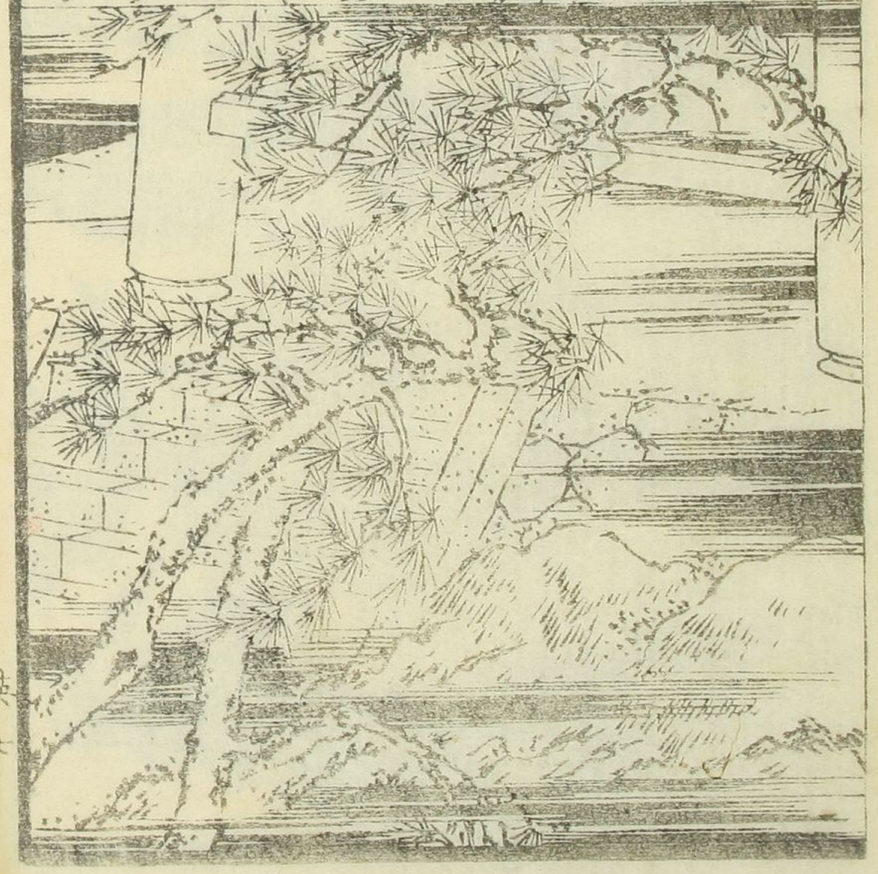
都元興寺の僧となりしが其の

頃清水へ毎夜鬼出て水を汲つく

人と食数は十ありしを鬼

とたつぐべくして或夜清水より

鐘をつくまねをして鬼なる



を彼童鬼の髪ふとつき

引入んとし鬼ふり返へ

るわざに我も力くらべと

ひけ出バ鬼皮肉つきたるまゝ

髪とのこして逃さりぬ此かた

今もえ興寺の宝殿かあり

いふ其後此童僧となりて

遠ちかあり成年四人をと

入るゆゑ水のあらそひ生涯が

大なる石をもて水口を塞ぬの

事多し今是を場法師と

長嘯子

愛智郡中村の人木下犯後守家定の嫡子にて若狭少将秀長勝後といひ秀吉公の甥なり

ゑとせ文禄元年の秋大坂の奉行等軍を起して伏見の城をせめ関東の浮氣人らを攻しにて既に討ものとむくに此と紀州後秀秋の作をうけて伏見の本城にあるしが義を立て炎をもりぞる政所の御所をも護せんと都に登るを天下忽ち御崇敬に成せしかば東山のふもとにかくれる栖居し天武翁と号し一生を終るまで和歌和文をもしる著述の事も多く郊外わろあるを紀ふるさとをそろの中村はあらむかしの住家のあるさるをおぼえて有人はかくこそあるめかしなつかしくにいそくらむ

堀尾吉晴

丹羽郡御供所村の人父八中務少輔吉久とて尾張上四郡の守汰を知る者と吉晴幼名を仁王丸といひやさしき性質なりしが十六歳の春夜軍に出て首級を人々の目を驚ろかしより岩倉合戦に立名をあらはし十七歳の夏慶助と改む十六歳の初陣より三列池鯉鮒にて加賀井弥八をきさとしまで二十二度の

武功ども也も殊勝の働きを秀吉公の臣となりて江北長浜にて百五十石領せしより北陸天にあるを武士と終は出雲源岐二列の守護となり常刀先生と号し秀吉公薨ト為ひ世既に乱出んとする事を察しなりて吉晴いまだくそなりて事成あり事らぐ寿長十七年六月辛時ふ年 六十九歳

柴田勝家

尾張国知多郡上社村の人なり。はじめ佐久間信盛に仕へ、後織田信長に仕へて武功をぬきんでたり。織田家の仕へ、武功をぬきんでたり。織田信行の附家老となり、末代の城主となり。信行常々の言葉ひそかに勝家を誘ひけるを信長聞入れて、勝家を深くにくみけり。其後信行清須の城

やがて横死の後、信長公仕へ、武勇抜群の英名とあり。はせり。信長公京都にて戦せ給ひしのち、清須の武将秀吉公はひしの勝家ひう家に仕へ、信長公を助けて織田家を立てたり。公怒りて志津が嶽にて勝家退治の合戦あり。ひかた北の庄にて自殺あり

大橋定高

三河守[illegible]沙弥村の人甚
先祖八幡の守護大橋
弼塙守平貞能の末葉
矢納平家滅亡の時尾張
国難田小潟船を矢納が
子大橋を所矢経が後
裔代々尾張三河の船任
き矢ヶ延元元年の冬
後醍醐天皇志のびて都を
出させ給ひ芳野山へ入せま

しけり宗良親王ハ征東
将軍小補して東国へ
ゆき給ふ吳湖とゝませのひて
尾張の大山へ入せのまひ
給ふ大橋定高ハ堀田
之聖寺の寄り来河国
[illegible]の寄せける又定高
子定元ハ四宗七堂の平
秋王の御孫良王を東国へ
むかへ奉せ大橋が奴婢の城
へかくまひ奉る

福島正則

海東郡二ツ木村の人幼名市松父ハ立人の細しきをさとなり或ハ父と共に野良ハ休みたるを一人の奴来りて市松さぎこけ尻甚無礼とゞめ強み謀りて切殺しぬ

山崎かつとりと笑ひて我今人と殺しの安き事を喜り

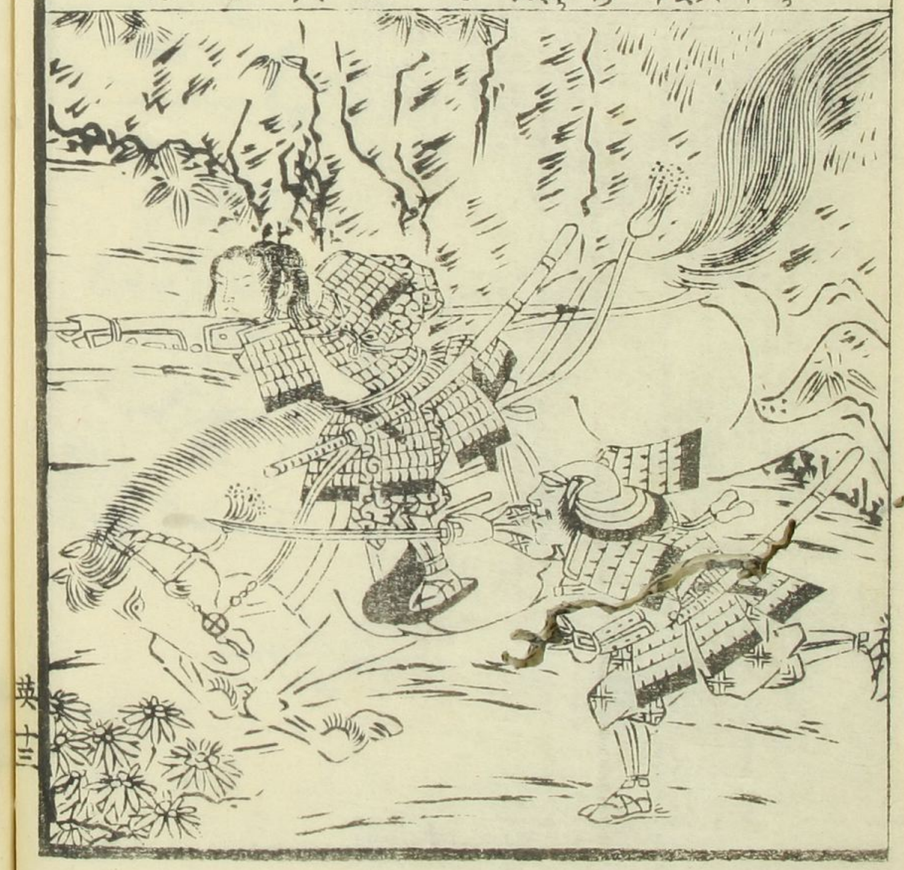
和ハく、士とあんとゝひー

夫より秀吉公か奉仕

武勇をあらハし天正十年元清の討ほろぼす文禄四年関白秀次卒わ[illegible]後清洲の城にうつり四位侍従羽柴氏とゝもなる秀吉公薨後御家か仕へ武功多く曼出八年か将元和三年参議従三位ふるゝ人志清ぶ嶽七本滝の功名より折くの軍功かぞへ[illegible]ぶ初安藝後芸州侯藩城後伝法ものふ

中野重吉

又名清といふ重吉郡中
北村の人織田信長ゆ張
長公に仕へ武名とゝ〳〵ふ
天文十一年八月三河小豆坂
の合戦に重吉生年十七
果いまゞ壹名にて槍とい
ひしゞ一騎当千の無双ハ
若干の敵と只七人にて
撞き退かゝ勝間とあ
げら浪まで小豆坂上本



泥にて児壹の口まで殘
りゝ其後那古井の城
を人〳〵左ゝ助氏豊の
女壹吉に嫁しける重吉
のむこめ奥田の祝司家
の妻とゝ〳〵しゝハ其頃ま
て老後奥田の田舎に籠
居し妻のゝめに一弾判
と建て香花の弟とせう
田舎の秋月院是之壹寿ハ
寿世三年十月卒も

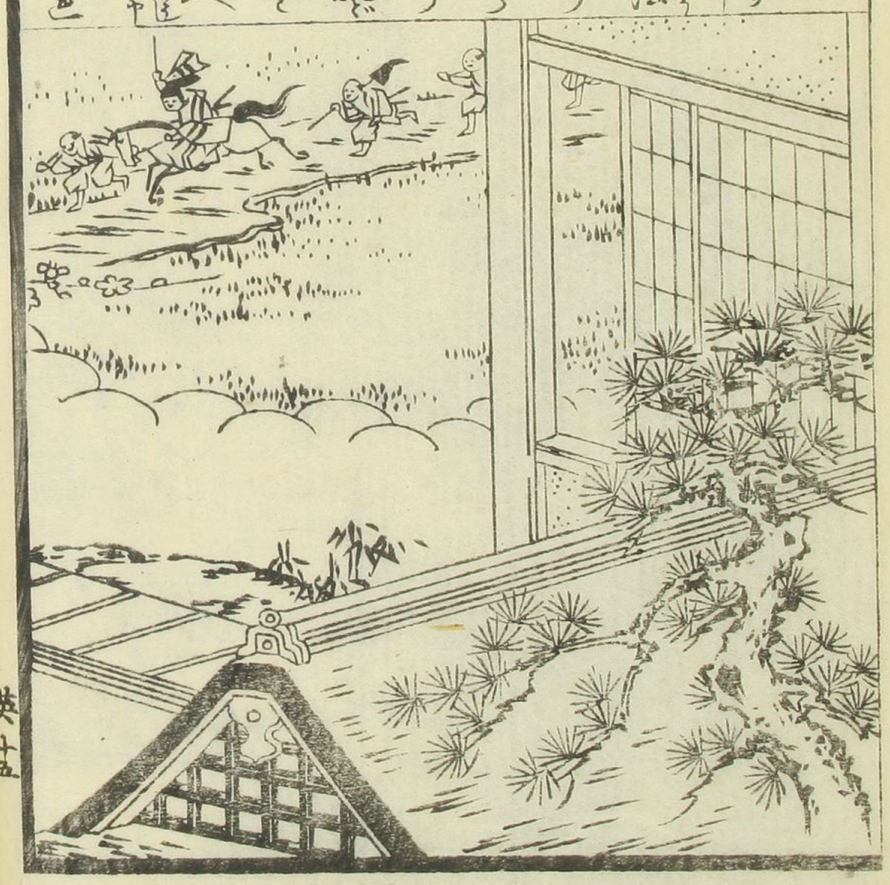
加藤清正

愛智郡中村の人加藤忠広
長男にして永禄五年
六月廿四日誕生なり幼名虎之助と
いひ秀吉公の外戚なり
さて天正十二年主
計頭に任じ同十六年紀州
をとり西行きと二人ふたちに
なるや清正熊本の城に入る
其後やまとさとぐく清正
まひてぬひて紀州をとりふ

幼年のころ武勇を
志津ケ嶽七本槍の先登
り生涯の軍功勇名ことなる
ちなる文禄のはじめ朝鮮
征伐の時彼地に渡海して
いるぐ城くとぬきとり
妻子くなる同と殺して
業明国までも武名を振
ひ一本八古今ぶ人なし
かくて慶長十六年六月廿
卒年五十一歳なり

平手政秀

春日井郡志賀村の人なり中務大輔と云ふ伝长公吉法師と云へるひとりの家老あり公幼少武藝を学ばせ是他事を忘れ行跡正しからざるを諫言申されば少入あれば則五ケの誅戮をくはへて我領地志賀村へ一入沢表和尚一ヶ寺を〻自害せるをつゝ



バ伝长公是を伝へ聞たまひまぶせ馬を延付海行としてかくはまるでと宣ひけるバ汝馬つゝでるゝ伝长公仰せ事云上げるゝ今より汝が兄弟なりと宣ふと少後十文字に腹切て死けり時に天文廿三年正月十三日六十二歳之是より伝长公行跡とあらためて天下のことあるべしも合く汝馬乃功なれ

佐久間勝之
靈智郡沖戸村の人
えどめ源六といひ佐久成敗の
嫡子とあり後本氏を後も
天正に未志バく武勇の名
をあらハし景安五年十月
関ヶ原にて関東に忠わり
其後延五位下大膳亮に
任ぜらるる大坂にて竹田永
翁を討つあるとき紀州海
にて颶風に遭ひ我国

熱田の神霊に祈ら
しバ恙なく着岸に
やうて大石姫竜と熱田
の宮に造進わりいま
熱田大宮の海藏門内に
ある大石姫竜ありこの神
霊応のほど摸のはて颶風
み魚のひ竜姫弟橘媛命
竜に代りて海に入るひ一竜の
車もあり颶風の愁ひハ
拾りまくいせるひ一あり

池田勝入

愛智郡菅子村の人なり

初三所恒興と名乗る大名

紀伊守信輝に召入られて

勝入と号す織田伝秀の紀

州波家の仕へ星崎の城

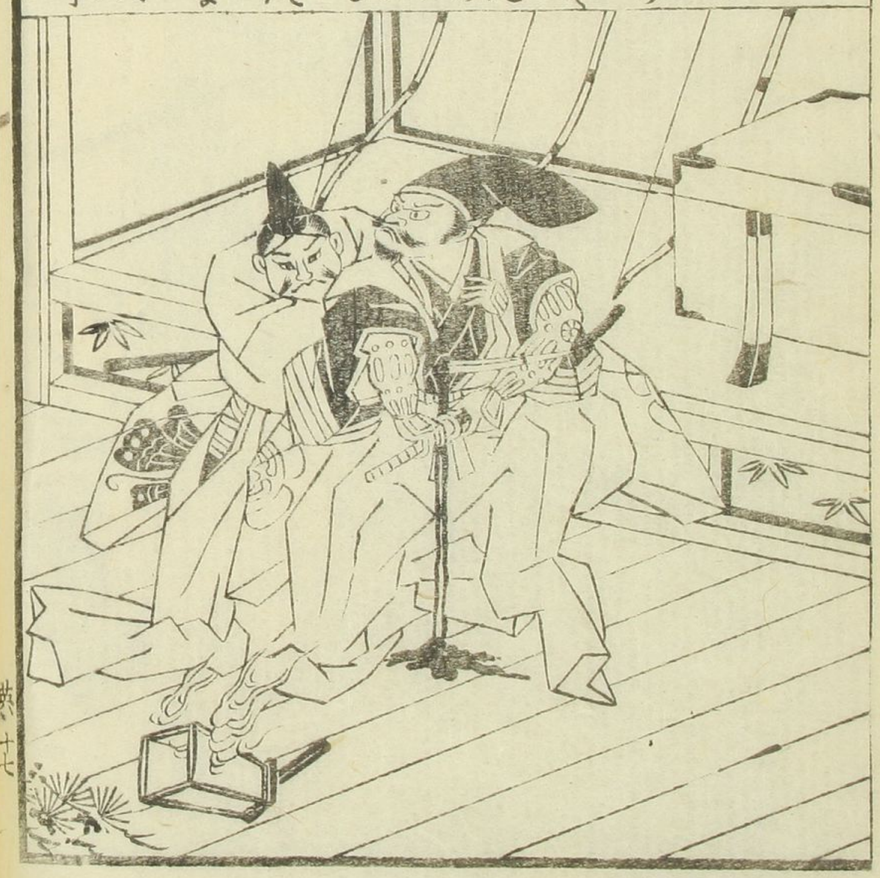
を攻られし時双びなき言

名とわ〳〵し諱の一字をた

まへ入る治元年海津合戰に

武勇をあらはし同三年正月

信長公の命武義守信行



公と討んの心あらはしたりれば

たばりて清洲の城中へも移き

勇士三人をして行せ〳〵しむ

こゝ行抜せと伝群拾数〳〵

年〳〵せ一等の武力よりて

大山の城をゝ天正十二年四

月長久手の合戰に秀吉

公よりをひ強く利あらずず

永井伝八郎に討たれ卒次

今犬山村に塚あり

多原長房
墨智郡　鳥森村の人初
ちゝ奪つとめし秀吉公の
伯母聟にて清須に住ん
じて老ひして居けると
岐阜府小竹ゐどゝふ所
ことに秋しらけるが後京
伝長公の命をうけ美濃
国各勢が示の軍に出る各
して七千石をぬひ俄に
大身になりて従者もる

く迷惑して七年をつを
よびて百石をとらせる後
とあり行て大身になり
ても十年一日せんと約束
ありけるが其後次第に
を紀し但馬国岩屋城
を領せ後伯耆守と云ひ
入道して道松と云関ケ原
役ゆゑ心を通じけ
出びつひゆゑを安堵
す

蜂須賀正勝

阿波郡蜂須賀村の人父ハ
蜂人正利と云ふ元来彼波
武衛の末裔なれとも此里に塾
居し所の名を苗字とせり
大永六年一子を生ふく名
を小六郎と云ひ智仁勇
の三徳を兼備し猛
の良士なりしかも大山の城
を織田信清に属せるを
日信清他日の為故ありて

ひ来りて大山の城をかこむ
小六郎防戦し弱小なれとも
迫掛ひ株梁の敵を捲たり
討れる夫より信長公小六人
徳を富羽柴與と会戦の時
言名比類なきの人信長公感
賞斜ならず時五百貫と
称りて表彰の褒賞を授名
甚子家及び武力多く阿波
徳島城とぬひ阿波守と為
今野の波波治宝の大寺へ

尾張英傑画傳二編

全一冊近刻　三編四編嗣出

春江小田切忠近編　英畫

此書ハ前編ヨリ抄出せざる高名の人々を撰ミて例の小冊子に抑往昔ろ日本ヨリ征夷大將軍を草創し給ひしハ近くハ東照宮を始めたてまつり頼朝公尊氏公信長公秀吉公なり是を世小草創五君と称し奉るそが中ニ信長秀吉の両公ハ武威をかゝやかし給ひし名此両公の旗下ニ属せし本国の勇士かぞふるに遑なし次日本の英雄大形ハ尾州より出ると但来先生の手已しるす賣さる事之狐と續で漸く今く備ハるべし　文華堂敬白

皇朝戰略編

圓陵宮田先生輯　前帙八冊　後帙七冊

此書ハ遠ク天慶ノ始メ平將門乱ヲ東國ニ作セシニ始リ近ク寛永ノ末島原ノ賊徒ノ西海ニ誅滅セラレシニ至ル迄前後凡七百有餘年ノ間名將良主英雄豪傑ノ奇戰妙略ノ跡ノ法則ト成可キヲ數本ノ史乗ヨリ撰ミ出シ武學ノ用ニ備ヘタル者ニシテ實ニ兵家ノ龜鑑タリト云ヘシ名將ノ勝ヲ制スル術ヲ覽リ又國家興廢ノ由ル所以ヲ知ル可者ハ此書ニ如ハ無ト言

尾州書林　名古屋本町通十丁目　美濃屋清七

早稲田大学図書館
011688994588